

| | | | | |
|--------|--|-----------|----------------------------|---------------------|
| 科目名 | 東北の歴史と文化 | 科目分類 | ■ 専門科目群 □ 総合科目群 | |
| | | | 国際学科 | □ 必修 ■ 選択 |
| 英文表記 | History and Culture in Tohoku | 開講年次 | □ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年 | |
| | | | 開講期間 | □ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中 |
| ふりがな | かまだ ゆきお | 実務家教員担当科目 | 修得単位 | 2単位 |
| 担当者名 | 鎌田 幸男 | 実施方法 | ■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用 | |
| 授業のテーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・東北の風土とその戦乱の歴史（文化）の概要を知る。特に秋田の歴史にも着目する。 ・もう一つの日本の歴史とは、どのようなことを意味したものか理解する。 ・東北地方の主要な経済的基盤は何かを考える。 ・東北の地域を歩いた文人の足跡を探る。 | | | |
| 到達目標 | <p>東北地方は風土的に、歴史的に、文化的にどのようなところかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北の風土を知る—歴史的にもう一つの日本の歴史を考える。 ・東北の文化を考える—蝦夷文化、平泉文化、修験信仰、北前船の往来など。 ・東北の地域を歩いた文人の足跡をたどる。特に菅江真澄と佐藤信淵に着目する。 | | | |
| 授業概要 | <p>東北地方は古くから奥羽地方と呼ばれてきた。時には「みちのく」とか「いでは」とか、また蝦夷地などとも称されてきた。それは風土論的な背景（地理的・環境的）もあるが、もう一つの日本の歴史が形成されていたところのようにもいわれる。そして中央集権国家形成のために日本海側では、出羽柵が築かれその後秋田城へと進展する。また前9年の役、後3年の役で代表されるように戦乱の地にもなるが、結論的には藤原氏の文化が繁栄することになる。こうした変遷をへて東北地方は武士団が移住して治めることになる。そして文化面でも経済面でも独自の発達を遂げた。本講義では、東北地方の風土的視野から歴史の概要と伝統的な文化を扱う。そして文人の足跡も探る。とくに菅江真澄と佐藤信淵に焦点を当てる。佐藤信淵は本学の祖師と仰ぐ人物である</p> | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション。講義の概要について説明する | | | |
| 第2回 | 東北の夜明け—地理的、風土論的な視野から考える | | | |
| 第3回 | 「蝦夷の地」「みちのおく」「いでは」とはどのようなことからつけられた呼称か、その意味は。 | | | |
| 第4回 | 東北地方の開拓—海から、出羽柵、出羽の国の設置。秋田城と呼ばれたころ。陸からの統治はどうか。 | | | |
| 第5回 | 武士団の台頭—前9年の役、後3年の役とはどのような争いか。 | | | |
| 第6回 | 東北地域の主要な経済的な基盤—馬、米、砂金など | | | |
| 第7回 | 藤原清衡、基衡、秀衡の時代と平泉文化の繁栄について | | | |
| 第8回 | 仏教文化の浸透と修験信仰の流入。出羽三山、鳥海山、太平山、男鹿の山。 | | | |
| 第9回 | 鎌倉の政権（源頼朝）の進出と北条氏勢力の浸透 | | | |
| 第10回 | 秋田への安藤氏進出—湊安藤と桧山安藤のこと（1） | | （小テスト実施） | |
| 第11回 | 秋田への安藤氏進出—安藤愛季と秋田実季のこと（2） | | | |
| 第12回 | 近代の歩み—戊辰戦争と東北諸藩の動向（秋田藩の動きに着目） | | | |
| 第13回 | 北前船の往来—経済的な影響と文化の伝播船としての役割 | | | |
| 第14回 | 菅江真澄の足跡 | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 第 15 回 | 佐藤信淵の足跡—本学の祖師と仰ぐ人物 |
| 第 16 回 | 定期試験 |
| 授業時間外の学習 | 1 歴史に関心を持ってほしい。 2 授業の前には、必ず前の授業を確認する。授業への前向きな姿勢をもつ。 3 道端の文化財—石碑などに関心を持ってほしい。 |
| 履修条件 受講のルール | ルールではないが、①平泉の文化、秋田城跡また環状列石や伊勢堂袋遺跡などの見学をしてほしい。 ②資料館見学も楽しい。可能であれば民族学博物館（大阪）、歴史民俗博物館（千葉）見学してほしい。 |
| テキスト | 使用しない。必要な資料を配布する。 |
| 参考文献・資料 | 「東北の地図で読む百年」古今書院、 授業でも紹介する。 |
| 成績評価の方法 | ①定期試験（60%）、②小テスト（20%）、③レポート（10%）、④授業の感想を簡単に書く（10%）。①②③④の総合評価とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 月・火曜日（9:00～10:30）これ以外の場合は事前連絡があると日程調整をする。 |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 実務経験及び 実務を活かした 授業内容 | |
| 学生への メッセージ | 学習したことをその日のうちに「まとめる、整理をする」時間を持ってほしい（1, 5時間）。それは次の時間の意識に繋がる。これを習慣化してほしい。 |